廣讃寺ジャーナル

第107号
(発行所)
真宗大谷派
松岡山 廣讃寺
中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341
携帯 090-1568-4623
〈E-mail〉
matsuoka@kosanji.or.jp

人とのつながり

近年、年賀状の数が大幅に減っているというニュースを見ました。その理由として携帯電話の普及によりメールやSNSと呼ばれるインターネット上でのサービスの利用が増加したことがあげられています。

確かに私も友人との間での年賀状は激減しました。スマートホンを覗けばいつでも友人とつながる状態になっています。電話の時代、長距離電話は通話料金が高いということがあり遠くにいる友人は遠い存在でしたが、今では遠くても近くても同じように簡単につながります。簡単につながるのですが疎遠になる人とはそのままです。いくらつながりやすくなったとしても、本当に人間対人間としてつながることはそんな薄っぺらな物では難しく、単なる伝達手段に過ぎないと思っています。

病院の予約、旅行、飲食店などの予約もネットでできます。その分、電話を使うことも少なくなります。人としゃべることも減るということになります。

人は一方では人とのつながりを面倒だと思いますが、その反面、孤独をいかにごまかすかに必死になっています。

病気もけがも乗り越え完走

井上　淑　82歳

30年以上続けているランニング人生は常に自己ベスト狙い、また上位入賞を目標にトレーニングし、年代別順位やマスターズ陸上競技で結果を出すことを目標に人生を送ってきました。

しかし4年前に右脚に脊柱管狭窄症の症状が出て、治療しながらのトレーニングでした。昨年は落車事故で左肋骨を2本骨折で半年間の治療、その後、リハビリテーションしながらのトレーニングでした。

妻の入院、看病、家事全般もあり、制約されたなかでしたが、質を高める練習で効果をあげてきました。

そして迎えた9月25日、石川県での全日本鉄人レース・ショートの部に出場し、マイペースの一人旅。4時間半かかって無事に完走できました。先頭より2時間以上遅くなりましたが、集落で迎えてくれる人たち、エイドステーション（補給所）では笑顔で励ましてくれたみなさん、温かく見守ってくれる役員に感謝の限りです。〝アスリート魂〟の殻を破って、家族、友人、大会関係者などの支えで、健康のありがたみを感じる1日でした。

煩悩成就の凡夫

親鸞聖人はご自分を含めて皆、煩悩にまみれて生きるほかにないとおっしゃられています。しかし我々は、我慢して煩悩をおさえるだとか、煩悩まみれではいけないから誠実に、とかいって、まるで自分の煩悩・欲望をコントロールできるかのごとく考えています。煩悩・欲望をコントロールしているから何とか今をやっていけることができるのだ、というそらごとを信じながら。

しかし、我々の煩悩・欲望はそんなに、なまやさしいものではないようです。我慢すれば不満、愚痴が出ます。誠実にと思えば不誠実な人を憎らしく思えてき

ます。かといって欲望のまま自由奔放に生きればいずれその後遺症に苦しむでしょう。となると、煩悩・欲望をコントロールできるなんてとんでもない話です。逆に煩悩・欲望に自分が支配されているといっても過言ではないでしょう。煩悩・欲望は、今はおとなしく燃えている小さな火でも、何かをきっかけに自分自身も燃やしてしまうような大きな炎にもなります。絶対に切っても切れない煩悩・欲望。

私は煩悩の身であるという自覚こそがまずは第一歩だと思います。

報恩講雑感

釋　綽智

廣讃寺で飯田真宏氏の法話を聴く。先日の「えしんりょう」漫才のお二人と同じようにお若い方でしたので少し世代の交代を感じてしまった。法話もぐっと若い方の感覚・目線で日常生活の中で法話を展開されたので、とても新鮮味があり寝ていられませんでした。特に飯田氏の話の中で印象に残ったことをお伝えします。

寺や自宅で行う法事にはそこにふさわしいお華束があるのでしっかり覚えて後世に伝えてほしいと須弥壇の報恩講のお華束を見ながら強調され満足そうな様子だった。

「俱会一処（くえいっしょ）」これは阿弥陀経の中にある言葉ですが、最近墓参りでこの墓碑があるのに気づき何かほっとした気分になったことがありますが、意味は「共に一所（緒）」ということです。法話の中で、これは人間同士だけではなく広く身近にあるすべてのものは同じ生命（いのち）を持っているのだから、よく考えて生命をいただく食前食後の言葉の口称（くしょう）は真剣にやるように喚起されているのだなあと気づく。

「無明長夜の燈炬（むみょうぢょうや　とうこ）」これは親鸞聖人の言葉ですが、人生は煩悩が多くて迷ってばかりであるということです。苦労し勉強された聖人でさえこうだから私たちには当

然迷ってばかりです。しかし何事も当たり前のようにすませて苦しみや悲しみから逃れようとしていませんか。いただいた生命を心から喜び感謝して精一杯生き抜いてほしいと諭されました。

人生に無駄なことは何一つありません。これは「子どもたちよありがとう」の作者、平野恵子さんがガンで四十一歳で亡くなる前に我が子に言われた言葉で深い意味があると感動しました。本堂の阿弥陀様と一緒に有意義な時をもたせていただいたことに感謝して山門を出る。

二月行事予定

二　月十一日(土)　七時半　同朋委員会・例会
（役員は七時）
十九日(日)　二時～四時　学習会
二十八日(火)　十時　二十八日講・女人講

三月行事予定

三　月　十一日(土)　七時　同朋委員会・総会
（役員は六時半）
十九日(日)　二時～四時　学習会

【春季彼岸永代経・蓮如講　執行】

二十日(祝)　十時　おつとめ
おとき　説教　前田健雄　師
一時　おつとめ
三時　帰敬式

二十一日(火)　三時　おつとめ・法話
二十二日(水)　十時　女人講・報恩講
おつとめ・住職法話
おとき
一時　おつとめ
二十八日(火)　十時　二十八日講・女人講